

50 anys ensenyant llengües

50 anys bastint pensaments



Text de l'exposició

Japonès

日本語の授業は 1971～72 年度に始まり、松浦先生が担当した。松浦先生は 1945 年に、広島に原爆が投下されるちょうど 3 カ月前に大阪で生まれた。1979 年の夏、松浦先生が母国を訪問された際に、学校の教材などを購入されたことが、当校の記録文書から読み取れる。文書には「スペインでこのようなタイプライターを入手することが困難であることを考えると、日本語教育のために、あなたの国でタイプライターを購入し、持ってきていただければありがたいのですが...」、また「外国語としての日本語教育に関する教材（視聴覚教材など）で、日本で入手可能なもので、学科にとって有益と考えられるものを入手していただければ当校にとって非常に意義ある事となるでしょう」と書かれている。タイプライターと教材は確かに届き、数十年にわたり日本語科で使われた。その後、ルルデス・ポルタが加わり、松浦先生とともにスペインとラテンアメリカの人のための『日本語』という教科書や日本語の文法書などを作成した。しばらくして神田橋香乃が加わった。それからロサリア・メディナ、アレックス・メセゲル、グロリア・白水。90 年代には小さかった日本語科が、どんどん大きくなっている。